

# 観光の取り組み評価

## 県大賞で2団体が奨励賞



多くの関係者が出席し、「おもてなし大賞」のダブル受賞を祝いました

県内の観光事業の活性化を図ろうと、県が本年度新たに設けた「観光王国みやぎおもてなし大賞」。大賞に次ぐ奨励賞に、本市観光物産協会阿部泰彦(あべ)会長と、同協会が事務局の「東北風土マラソン」&「フェスティバル実行委員会」が選ばれました。



観光物産協会は「ハイカラさん」による観光案内などが、風土マラソンはフルマラソンと物産展などの同時開催の取り組みが評価されました

2月2日には迫町の物産施設「登米南三陸 Festival(フェスティバル)」で奨励賞受賞の祝賀会が開かれ、約70人の関係者が出席。あいさつした阿部会長は「受賞は関係者皆さんの協力の賜物。登米市を全国に売り込み、ますます元気にしたい」と述べ、「来年は大賞を目指します」と力強く話しました。

# 伝統野菜の良さ紹介

## 復活プロジェクトで試食会

市内の特定の地域に伝わる希少な野菜や料理を掘り起こし活用につなげていこうと、市では1月19日、伝統野菜・伝統料理試食会を開きました。試食会場は宝江ふれあいセンター(中田町)に、市内の飲食店や学校関係者など約60人を招待。迫町北方の「観音寺セリ」を使った「セリ鍋」

や石越町北郷の「長下田うり」の「金婚漬」、豊里町二ツ屋の「けの汁」など10種類の料理を提供しました。市では、平成25年度に「登米市伝統野菜復活プロジェクト」を発足。市民から寄せられた情報を基に、これまで約20種類の野菜や料理を確認しています。



試食会では、市と協定を結ぶ仙台ロイヤルパークホテル総料理長による伝統野菜の創作料理も提供されました

# 地域医療を皆の手で

## 迫・新田駅前区で座談会

迫町の新田駅前区自治会(石川法夫会長)では1月28日、市民病院職員との座談会を開きました。行政区単位で市民病院職員との座談会を行うのは初めてです。

新田駅前生活センターで行われた座談会には地区住民約60人が出席しました。市民病院からは、石井宗彦(むねひこ)院長

管理者(院長)をはじめ看護や経営部門の責任者6人が出席。石井院長と伊藤英悦(えいごつ)参与が、市民病院の現状と取り組み状況などを説明しました。石川会長は「地域の病院が良くならなければ、私たちが安心して生活できない。相互理解が必要と感じ、座談会を開催しました」と述べました。



病院の現状と取り組みを理解しようとして、同区で初めて企画した座談会

# 全国大会の活躍誓う

## ソフトテニス出場の6人



全国大会に出場する6人。布施市長(左)に全国での活躍を誓いました

市内の小・中学生6人がソフトテニスの県代表で全国大会に出場。1月21日、出場報告で市役所を訪問しました。出場するのは、東郷小5年の高橋明輝(あきひろ)君と小野寺咲乃(さきの)さん、同小3年の菅原菜倫(なゆ)さん、南方小5年の白鳥和(わ)さん、南方中1年の白鳥怜(れん)君と星椋(しん)也(や)君です。6人はい

ずれも昨年11、12月の県予選会などで好成績を収め、県代表に選考されました。小学生の4人は3月29日から千葉県白子町で開かれる全国小学生大会に、中学生2人は3月26日から三重県伊勢市で開かれる都道府県対抗全日本中学生大会にそれぞれ出場します。

# 1年の学習成果披露

## 中田ふたばの会で発表会



発表の最後は小・中の子どもたちが合同で「ふたば太鼓」を力強く演奏

中田町域にある小・中学校の特別支援学級で学ぶ児童・生徒たちを支援する中田町ふたばの会(吉岡進会長)では

2月4日、子どもたちの学習発表会を開催しました。会場の上沼ふれあいセンターには、子どもたちの家族や市民、学校関係者ら約50人が出席。加賀野、石森、上沼、宝江の四つの小学校と中田中学校の子どもたち16人が、1年間の学習の成果を披露しました。

小学生は詩の朗読や楽器の演奏、中学生はAKB48や妖怪体操の踊りなどを披露。会場からは、子どもたちの発表が終わるたびに大きな拍手が送られました。



会場内には、子どもたちが制作した作品も数多く展示されました